

# 四谷の

# 千枚田だより



第200号

平成十五年、サミットもほぼ決定。以来、棚田研究の第一人

「四谷の千枚田だより」二百号達成 皆さんの励ましで十六年七か月、発行し続けられました。

発行の経緯は平成十三年、石川県輪島市の第七回全国棚田(千枚田)サミットに於いて「ふるさとときやらばん」の高橋久代(棚田学会事務局)さんから「四谷の千枚田もサミットをやつてちょうだいよ、当然でしょ」とお声がかかり、半ば強引に高橋庄一会長、鳳来町役場筒井農政係長さん共々棚田連絡協議会長を紹介され、平成十七年第十一回全国棚田(千枚田)サミット開催に至った。

サミット開催に手を挙げた「四谷の千枚田」、当時の下江町長さんの大きな理解から保存会、地域の有志は千葉県の大山千枚田、岐阜県坂折棚田、佐賀県藤野の棚田等々に大挙押しかけサミット開催地「四谷の千枚田」を猛アピール。特にサミット開催翌年の宮崎県日南市では高速道事故渋滞、中部空港では我々を取り残して飛び立って行く機影に戸惑ったなど、懐かしい思い出が残る。

者中島峰広先生、棚田ネットワーク高野光世さん、ふるさとときやらばん脚本・演出家の石塚克彦さんなどサミットに関係する大勢の方々が訪れた。そんな中、高橋久代さんを案内、何かアクションを起こさなければと語り合い地域の情報誌「四谷の千枚田だより」の発行を思い立った。

発行は(舞)が四谷の千枚田を地域の宝として保存活動を誓った平成三年九月二十三日の誕生日であったことから、平成十五年の九月を第一号として発行。海老地区全戸配布また新城市のHPでも発信。愛知県ふるさと水と土指導員の活動支援を受け、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課で印刷等の協力を戴いている。当初はサミットまで続けようと思ったりしてみたが、地域の皆んなから「面白かったゾン：楽しみにしとるでいやあく」などと言われるおだてに乗って未だ書き続けている。継続は力なり：書き続けているうちに、「四谷の千枚田だより」が各方面に話題にもなり、地域の宝と

しての補助的役割を徐々に担うまでに至った。例えば、「あいち森と緑づくり」の事業採択、モリアオガエルの自然再生からイギリスBBCの長期取材・世界放映、「田園自然再生活動コンクール」農林大臣賞受賞、「生物多様性国際会議」招致貢献、最近では道徳読本の教科書。昨年末には長年培った出来事を纏め、「第六回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に応募した結果、まさに地域の宝として活動三十年、その時に、選定・受賞。おかげで首相官

邸で安倍晋三内閣総理大臣、菅義偉内閣官房長官、北村誠吾内閣府特命大臣、江藤拓農林水産大臣ともお会い、お話する榮譽を得た。これも、長きにわたり発信し続けてきた「四谷の千枚田だより」や地域住民ともども守り通している「四谷の千枚田」のおかげと思ひ、継続意欲が沸いていることは事実である。四月一日付で「内閣府地域活性化伝道師」の登録・任命も継続は力なり：のお駄賃とありがたくお受け、もう少し頑張る所存である。

## 登録証

地域活性化伝道師

小山 舞二 殿

平素は、地域の活性化のためご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今般、地方創生の本格展開へ向けた取組が全国各地で進められているところ、専門家による指導、助言が求められております。

貴殿におかれましては、これまで培われてこられた専門知識を活かし、「地域活性化伝道師」として、全国の地方公共団体等が抱える様々な課題解決に向けた取組に対し、是非ともご協力を賜りたく、何卒、よろしくお願いたします。

登録期間

令和2年4月1日  
～令和3年3月31日



内閣府  
地方創生推進事務局長

海 堀 安 喜



## 新型コロナウイルス

終息の見えない新型コロナウイルスの感染増加で世界中が恐慌状況に陥っている。国も県も市も不要不急の外出自粛などの呼びかけ、経済状況の悪化まで招いている。

千枚田関係の行事でも中止は「パワートレイル、横浜ゴム新入幹部研修、地元鳳来寺小学校、豊橋調理製菓専門学校、新城高校の田植え、奥三河バスツアーなど。

また、新城市の関係する観察会等の行事は七月一杯は中止、長篠合戦

## 予告

### お田植感謝の夕べ

～みんなで灯そう千枚田～

開催日 令和2年6月5日(土)

開演 午後7時

中止の可能性あり  
午後4時からロウソク設置などのお手伝いをお願いします

要項 皆さんの協力を依存します

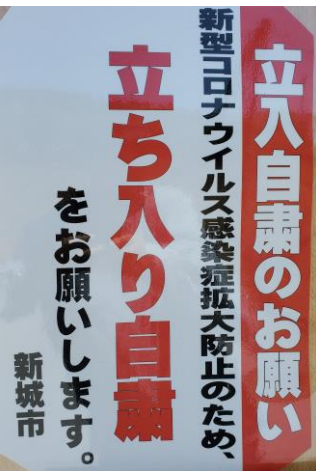
しし汁・鳥長の皮肝・棚田っ娘の五平餅

主催 鞍掛山麓千枚田保存会

共催 連谷地区の皆さん&県ふるさと水指導員

のぼりまつりはイベント・物産展は中止し、戦没者慰霊法要のみ行う方向であり、祀りに奉納するタニシの確保は依頼されている。

四月二十四日、新城市は観光地など人の出入りの多い場所に立入自粛のポスターを掲示した。



(啓蒙ポスター四谷の千枚田)  
いずれにしても先の見えない悪玉な新型コロナウイルスの一日も早い終息は、誰しも待ち望んでいる。  
保存会総会

例年、この時期に鞍掛山麓千枚田保存会総会を開催しているが、本年四月十六日政府は新型コロナウイルス感染拡大に対応する緊急事態宣言の対象地域を全都道府県に拡大した。愛知県はその中でも「特定警戒」区域に指定されており、新城市においても、市長は可能な限り人との接触機会を減らす自粛メッセ



昨年 5月上旬

ージを市民に到達した。この状況から保存会においても「三つの密(密閉・密集・密接)を考慮、通常総会は保存会会員に総会資料を送付、資料を確認いただき、同封の返信ハガキの書面決議に記入のうえ、令和二年四月三十日必須で事務局に提出とした。

## コラム

日本三大石積の一つ、「四谷の千枚田」は斜度六分の一の急傾斜地に一枚の平均面積が一坪にも満たない小さな田んぼを精魂耕している。今、このご時世に「こんねに難儀

して、何で作つとるだん…米なんか買やああいだに、安いもんだぞん…」等々の話はよく聞く。

耕作者は「親が残してくれたもんでのん」とか「ここを荒らしてみりん、ふるさとが無くなっちゃうじゃ」と、今日も、愛おしい「よたくれ田んぼ」に「馬鹿じゃあできんぞん」、「バカにならにやあ…」と、ああだこうだ知恵を絞りながら耕す棚田に、おかげで元気を貰っている。

行 令和二年五月一日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二